ΑΛΕΞΑΝΔΡΕΙΑ

恵泉女学園大学図書館報

No.52

特集「恵泉本！」

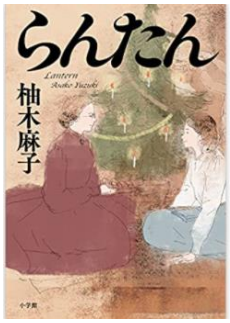
『らんたん』を読んで

恵泉女学園の創設者・河井道と、彼女と「シスターフッド」と呼ばれる強い絆で結ばれていた渡辺ゆり。二人の関係を中心に、道の可能性を早い時期から認めていた新渡戸稲造（教育者・国際連盟事務次官）、アメリカ留学時に出会った野口英世（医学博士）や有島武郎（小説家）、津田塾の創設者である津田梅子や、「赤毛のアン」の翻訳者である村岡花子まで。それだけでなく、GHQで「戦後日本」の民主主義政策に深く関わったボナ・フェラーズなどとの交流を通じて明治から大正、昭和に至る日本を描いた事実を基にした大河小説です。道の奮闘のすべては、女性が自立して活躍できる社会を実現させるため。その中心に恵泉女学園がありました。

恵泉には第一回目の卒業式から続く「学燈ゆずり」という伝統があります。暗闇の中で灯された学燈（ランターン）の火が、卒業生から在校生へと手渡され、明かりを心に受け継いだ学生たちは、その「光」と共に社会に飛び立っていくのです。 そこには、どこに行っても暗闇を照らし出す人（＝なくてはならない人）になって欲しいとの願いが込められています。

作者の柚木麻子さんは、数々の文学賞を受賞されている作家です。そして恵泉女学園（中高）の卒業生ですから、小説のタイトルである「らんたん」は、もちろん「ランターン」のこと。題名に、恵泉という学び舎への道の思いが込められているのです。

激動した三つの時代を駆けるように生き、周囲の人々を照らし続けた河井道。河井道先生から託されたランターンの「光」は今、私たちと共に、私たちの中で輝きを放っているのです。



(英語コミュニケーション学科 教員)
桃井和馬

『らんたん』 柚木麻子著
小学館　2021年

目次

特集　「恵泉本！」

「『らんたん』を読んで」　桃井 和馬　フジオカ 鶴子

一緒に読みたい「恵泉本」＋

図書館オススメスポット

『らんたん』を読んで

河井道を題材にした柚木麻子の本が出ると知ったのは、2021年秋のことでした。恵泉で少女時代を過ごした人気作家はいったいどんなストーリーを語ってくれるのか。「まるで朝ドラのようなエンタメ小説」と聞き、興味津々となりました。

私は、女の人がやりたいことをやって、恋愛や結婚をしなくても、友だちに恵まれて夢を叶えて、うんと長生きするような幸福な話が読みたいですわ。そういうものが名作だと思います。
『らんたん』P122

作中の道のセリフですが、『らんたん』はまさにそのような本でした。作者の想像力が産んだ、道のはっきりした物言いは痛快で、思わず笑ってしまう場面もありました。
この作品では、大切なものを「シェア」しながらまっすぐに生きる河井道が、明るいトーンで描かれています。その一方で、日本は、関東大震災、世界恐慌、第二次世界大戦、敗戦へと暗い時代を進んでいきます。
弱者に厳しい世の中にあって、道は女性の連帯に希望を抱き、平和を学ぶ女子教育の大切さを唱え、行動していきます。そして、彼女と「共に生きた」のもまた、一色ゆりをはじめとした、凛とした女性たちでした。女性たちの友情物語が紡がれています。

道の歩みの原点は、キリスト教と米国留学でした。そんな彼女もはじめから自信に満ちた人であったようには描かれていません。その姿に私は親しみを覚え、道を好きになりました。

新渡戸先生はキョトンとしているが、道は全身に汗が吹き出し、落ち着かなくなっていた。あくまでも日本での暮らしの中で、海外の文化を学び、「日本はまだまだだなあ」とため息をつきながら、良いところを取り入れるくらいなのが好きなのだ。強気でいられるのも、いざとなれば家族や仲間に会える環境だからだ。言葉も文化も違う未知の世界にたった一人で飛び込んで、ゼロから学びなおすことを　考えたら、面倒くさいやら怖いやらで、泣きそうになった。
『らんたん』P70

道の背中を押したのは、先に海外で学んだ新渡戸稲造や津田梅子たちの存在でした。学びと祈り、友と支援に恵まれて、ときを得て道の夢は実現しました。留学で身につけた教養と人脈こそが道の財産でした。その財産を「シェア」する場として誕生した、恵泉で学ぶ皆さんに、私はこの本をおすすめします。

留学に限らず、新しいことに挑戦するときには勇気がいります。卒業論文を書きながら就職活動を進めるときなど、誰かに代わってやってもらうことのできない、自分との闘いのような状態に気づいて、道のように怖気づくこともあるかもしれません。そんなとき、顔を上げて周りを見渡してみてください。この大学に集う方々はみな、道やゆり。そう信じて話をして、背中を押してもらってください。きっと勇気をもらえると思います。

フジオカ 鶴子
(平和学研究科卒・キャリアセンター)

特集「恵泉本！」

装丁は、和紙を糸でとじた和綴じ本。

恵泉創立者河井道の自伝『わたしのランターン』は、もともとは英語。外国の読者（米国の友人たち）を想定していました。

My Lantern
by Michi kawai
1939年

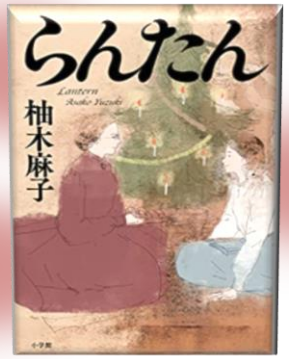
百合の娘である著者が描く「道とゆり」の物語。二人をつなぐ深い絆である「シスターフッド」の理解も深まる一冊。

『河井道と一色百合の物語
恵みのシスターフッド』
一色義子著　キリスト新聞社
2012年

一緒に読みたい「恵泉本」＋

戦時下の恵泉女学園の生徒たちの日常や河井道の動向が週単位の記録でわかる年表もすごい。

『戦時下の恵泉』
恵泉女学園史料室編。2021年



エピソードに登場する学生たちとその労働の様子を撮った写真も貴重。

第三部で描かれた白洋舎（クリーニング工場）での戦時下の勤労動員の記録。

『想起　勤労動員下の白洋舎時代』
恵泉女学園普通部第十二回四年卒業組編
1992年

『らんたん』がもっと面白くなる！
理解が深まる！

『らんたん』に登場する「問題の雑誌」、「問題作」、「問題の作家」の作品を出版当時の姿で読んでみませんか？

これらの本は「復刻版」として図書館で所蔵しています。

平塚らいてう×河井道

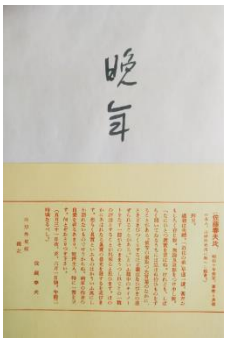
雑誌『青踏』
第1巻1号
1911年9月発行

エピソードは・・・『らんたん』pp.155-157

有島武郎×河井道

『或る女』有島武郎著
1919年3月発行

エピソードは・・・『らんたん』pp.210-214



太宰治×河井道＋イナゾウ？

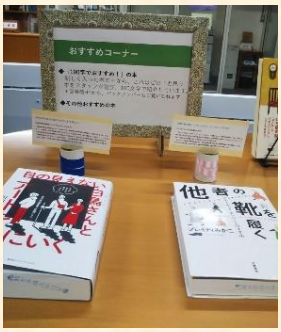
＊イナゾウは恵泉で飼っていたワニの名前。

『晩年』太宰治著
1936年6月発行

エピソードは・・・『らんたん』pp.309-312

図書館オススメスポット☑

みつけたらチェック！



□図書館HPのブログ「100字でおすすめ！」で図書館スタッフが選んだ本を展示。

□恵泉女学園関係の発行物と大学の教員の著作物が,展示されています。図書館入口手前の展示ケースです。
　今回の図書館報で紹介した「恵泉本」も展示されています。この中の図書も閲覧できますのでカウンターへ気軽に声をかけてください！

□図書館に新しく入った本はここでチェック！

図書館のキャラクターの名前を募集します！

図書館内の掲示などでこのクマのようなキャラクターを時々みかけませんか？

このキャラクターが「３D化」したのをきっかけに、利用者の皆さんにますます親しんでいただこうと、名前を募集することにしました。ぜひ応募してください。

応募先メールアドレス　library@keisen.ac.jp

件名　図書館キャラクター名

メール内容　キャラクター名（理由があれば一言）
学籍番号　名前

締切り　4月末日

応募していただいた名前は、図書館スタッフで選考させていただきます。名前が採用された方には記念品として、立体のキャラクター1体をプレゼントします。

キャラクターのプロフィール
一見、クマやネズミの様だが、実は図書館にすむ妖精。
普段は書架のすみなどで、本を読んだり、まったりしているが、本が見つからず困っている利用者をみつけて助けたり、資料探しの手伝いをしたりする図書館スタッフの一員。

☆得意技 ： 必要に応じて体の大きさを変えられる。
☆好きな食べもの ： おにぎりと卵サンド。

恵泉女学園大学図書館報ΑΛΕΞΑΝΔΡΕΙΑ（アレキサンドレイア）ｎｏ52　2022.4
発行　恵泉女学園大学図書館　〒206-8586　東京都多摩市南野2-10-1　Tel. 042-376-8441/Fax.042-376-8336